

肉量・肉質両面で高い遺伝能力が期待できる種雄牛「北平5」号

[背景と目的]

種雄牛は、肉用牛改良を促進するとともに、本県銘柄「常陸牛」の品質を安定させるうえで重要な役割を担っています。肉用牛研究所は増体・肉量・肉質などに優れた種雄牛の凍結精液を供給することで、「常陸牛」の素となる高品質な子牛生産を支えています。

[主な成果]

平成 25 年度に能力調査が終了した種雄牛「北平5」号の遺伝能力は、各項目において県平均を上回りました。特に脂肪交雑（霜降りの度合い）枝肉重量とともに、これまで調査したなかで歴代 2 位となる高い遺伝能力を示すなど、肉量・肉質ともに期待できる、バランスのとれた種雄牛であることが判明しました。（表-1 および 2）

[期待される効果]

- ・「北平5」号は質量兼備型の種雄牛として、肥育素牛としてだけでなく、繁殖素牛あるいは乳用牛による交雑種など幅広く子牛生産利用ができる種雄牛として期待できます。
- ・平成 25 年 7 月から本格的に凍結精液の生産と供給を開始しており、県内だけでなく全国的に配布できる体制をとっています。

表-1 「北平5」の検定成績

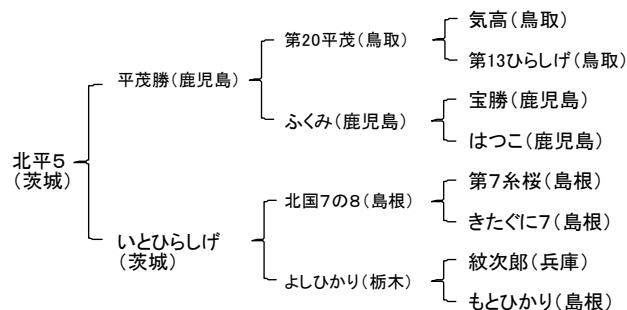
	枝肉重量 kg	日齢枝肉重量 kg	ロス芯面積 cm ²	ハラの厚さ cm	脂肪交雑 BMSNo.
全国平均	459.7	0.53	55.9	7.8	5.7
北平5	513.8	0.56	62.4	8.7	7.2

注) 全国平均：広域後代検定事業により平成25年度に能力評価が行われた検定終了種雄牛51頭の平均。

表-2 「北平5」の遺伝能力(育種価推定値, 平成25年8月推定)

	枝肉重量 (kg)	ロス芯面積 (cm ²)	ハラの厚さ (cm)	脂肪交雑 (BMSNo.)
北平5	+95.221	+8.776	+1.219	+2.010
参考 北国関7	+53.614	+12.480	+1.456	+2.502
参考 県平均値	+22.733	+6.737	+0.4688	+1.326

注) 北国関7は脂肪交雑が歴代トップの県種雄牛



平成19年3月5日生まれ 家畜個体識別番号12352-0917-6

図1 「北平5」の血統と概要



写真1：北平5